

2026年度 第67回「道路橋点検士技術研修会」業務経歴証明書記入のご案内

本書は、「道路橋点検士技術研修会」を受講するために必要な業務経歴および資格等を証明するための書類です。

記載内容に不備がある場合は受講できませんので、以下の案内に従い別紙ご記入ください。

1. 受講資格について（必ずお読みください）

受講申込者は、以下（1）、（2）のいずれかを満たす必要があります。

（1）以下のいずれかの資格を保有している方

資格番号1～7の対象資格を保有している場合は、表－1の該当番号に☑を入れ、**資格証明書の写しを必ず添付**してください。資格は一つあれば構いません。

1. 技術士（総合技術監理部門・建設部門）
2. 土木鋼構造診断士（日本鋼構造協会）
3. コンクリート診断士（日本コンクリート工学会）
4. コンクリート構造診断士（プレストレストコンクリート工学会）
5. RCCM（部門不問・建設コンサルタンツ協会）
6. 特別上級／上級／一級土木技術者（土木学会・鋼構造またはコンクリート構造）
7. 一級土木施工管理技士

（2）上記資格を保有していない方

「4. 橋梁に関する技術的な実務経歴」を記入してください。最終学歴・指定学科に応じた実務経験年数が必要です（4. 参照）。

2. 受講できない方（事前確認）

以下に該当する場合、研修会は受講できません。

1. 成年被後見人または被保佐人
2. 禁錮以上の刑の執行後、または刑の執行を受けることがなくなった日から**2年以内**の方
3. 公務員で懲戒免職処分後、**2年以内**の方
4. 高所研修を伴うため、介護が必要な方及び妊婦の方

該当する場合は申込できませんので、事前に必ずご確認ください。

3. 書類の記入方法

（1）基本情報

氏名、勤務先、生年月日など、必要事項を正確にご記入ください。

（2）最終学歴

学部・学科、卒業年月を記入してください。中学校卒業のみの方は、卒業年月のみで構いません。

（3）保有資格

表－1の該当番号に☑を入れ、**資格証明書の写しを添付**してください。

資格なしの方は、次の「4. 実務経歴」の記載が必須です。最終学歴・学科と実務経験年数を確認の上、必要な実務経験分の経歴を記載してください。

4. 橋梁に関する技術的な実務経歴（資格なしの方のみ）

以下の最終学歴・指定学科に応じた実務経験年数が必要です。

最終学歴	指定学科	必要な実務年数	指定外学科	必要な実務年数
大学／高専（専攻科）	土木工学等	3年以上	その他	5年以上
短大／高専（本科）		5年以上		7年以上
高校		7年以上		9年以上
中学		12年以上		

※指定学科：土木工学・農業土木・鉱山土木・都市工学・衛生工学・交通工学・緑地・造園学等

【実務経歴記載時の重要ポイント】

- 橋梁に関する技術的な業務であることが第三者に明確に分かる内容で記載してください。
- 業務名が分かる場合は業務名を記載し、業務内容は橋梁に関わる技術的内容が分かるように具体的に記載してください。

【記載例】

橋梁の点検・診断業務の場合

- ○○橋の橋梁診断・点検（業務）
- 国道△△号○○橋の橋梁点検（業務）
- 橋梁点検業務（○○橋他△橋） など

橋梁の設計業務の場合

- ○○橋下部工の設計（業務）
- △△橋の詳細設計（業務） など

橋梁工事の場合

- ○○橋の現場施工管理
- △△橋の工事計画
- ○○橋架設工事
- △△橋補修工事 など

- 事務作業・営業活動・単純作業など、技術的業務と認められない内容は記載しても実務経験として扱われません。
- 記入欄が不足する場合はページをコピーして追加してください。

5. 保有資格又は業務経歴の証明（必須）

記載内容が事実と相違ないことを証明するため、証明者が以下を必ず記入してください。

- 勤務先名・所属部署
- 役職
- 証明者氏名（押印必須） * 公印・私印は問いません。

【注意事項】

- 証明者の記名・押印が **無い場合は受講できません。**
- 申込者本人が法人代表の場合は、自ら証明者となってください（押印必要）。
- 賛助会員で割引対象の場合は「優待券」を添付してください。
- 虚偽の記載があった場合、受講および修了証は無効となります。
- 本書に記載された個人情報は本研修会のみを使用します。

6. 書類提出前のチェックリスト

- ①証明者の押印はあるか（最重要）
- ②資格証明書の写しの添付（資格者）
- ③実務経歴の年数が足りているか（非資格者）
- ④基本情報の漏れ
- ⑤優待券の添付（該当者のみ）

以上の内容を確認の上、業務経歴証明書をご提出ください。不備がある場合は受付ができませんので、ご注意ください。

2026年度第67回「道路橋点検士技術研修会」業務経歴証明書

1. 基本情報（必須）

受付番号	1 2 3 4
氏名	山田 太郎
氏名（フリガナ）	ヤマダ タロウ
生年月日（西暦）	2000年1月3日
勤務先（正式名称）	〇〇コンサルタント株式会社

2. 最終学歴（必須）

学校種別	〇〇〇〇	大学院・ <u>大学</u> ・短大 高専・専門・高校・中学
学部・学科	工学部	土木工学科
卒業・修了・中退年月（西暦）	〇〇〇〇年〇月卒業	

※1. 大学院修了の方は、大学の学部・学科も併記願います。

※2. 中学校卒業のみの方は、学部・学科の欄は空けてください。

3. 受講資格の確認

資格番号1～7の対象資格を保有している場合は、表-1の該当番号に☑を入れ、資格証明書の写しを必ず添付してください。資格は一つあれば構いません。

表-1

	資格名称	添付する資格証明書の写し (同封確認のため☑して下さい)
1	技術士（総合技術監理部門・建設部門）	<input checked="" type="checkbox"/>
2	土木鋼構造診断士（日本鋼構造協会）	<input type="checkbox"/>
3	コンクリート診断士（日本コンクリート工学会）	<input type="checkbox"/>
4	コンクリート構造診断士（プレストレストコンクリート工学会）	<input type="checkbox"/>
5	RCCM（部門不問・建設コンサルタンツ協会）	<input type="checkbox"/>
6	特別上級／上級／一級土木技術者（土木学会・鋼構造又はコンクリート構造）	<input type="checkbox"/>
7	一級土木施工管理技士	<input type="checkbox"/>

4. 橋梁に関する技術的な実務経歴

「3. 受講資格の確認」で該当する資格が無い方のみ、最終学歴・学科に応じた必要な実務経験年数を確認の上、橋梁に関する技術的な経歴を必要経験年数分記載してください。「3. 受講資格の確認」で該当する資格がある方は、実務経歴の表は空欄で構いません。

橋梁に関する技術的な実務経歴	職 歴				
	期間（和暦）	月数	勤務先	所属	業務内容
	H19.4~H20.3	12ヶ月	(株)〇〇コンサルタンツ	橋梁設計課	〇〇〇橋の橋梁点検・診断業務
	H20.4~H20.8	5ヶ月	同上	同上	国道△△号〇〇橋の橋梁点検業務
	H20.11~H21.3	5ヶ月	同上	同上	〇〇橋下部工の設計
	H21.4~H21.12	9ヶ月	同上	同上	△△橋の詳細設計
	H22.10~H23.3	6ヶ月	同上	同上	〇〇橋の現場施工管理
	H24.9~H25.3	7ヶ月	△△建設(株)	橋梁工事課	△△橋の工事計画
	R3.5~R4.3	11ヶ月	同上	同上	〇〇橋架設工事
	R3.9~R4.7	11ヶ月4ヶ月	同上	同上	△△橋補修工事
計	66 59ヶ月				

期間が重複している場合は、重複する期間（7ヶ月）は実務経験に計上しません。

最終学歴が指定学科として認められない場合や業務内容が橋梁に関する技術的な業務として認められない場合があるため、実務経験は年数に余裕をもって記入して下さい。

上記の保有資格又は業務経歴の記載について、事実と相違ないことを証明します。

（賛助会員の方は、該当する方に☑を入れてください。）

この受講者を割引対象者と

しません します （※「します」の場合は「優待券」を必ず添付してください。）

証明者勤務先・所属部署： 〇〇コンサルタン株式会社 東京支店 役職：部長

証明者氏名：国土 護 （押印）